

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム双葉の家
(ユニット名)	1号館
所在地 (県・市町村名)	浜松市南区古川町234
記入者名 (管理者)	本田 利江子
記入日	平成 21 年 2 月 16 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営理念「運営推進会議がもたらす地域との輪」 「双葉でつくる優しい介護」 「コスト意識を大切に」 「判断力 認識力 反省の力」 を掲げ介護している</p>	○ 運営推進会議を開くたびに地域との関係が深まっている
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	ホームの運営理念を掲げ、実現にむけて努力している	○ 月に1回の全員参加の職員会議 毎週月曜日の朝礼 問題発生時はその都度会議を開き解決にあたっている
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ホームの運営理念を掲示している	○ ホームで概ね2ヶ月に1回開催している 運営推進会議に家族、地域の方々が多く出席していただいている
まる			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	日常の挨拶はかかさず、畑にいれば、声かけし合って、世間話ができるような親しさができてきた	○ ホームの行事(夏祭り、運動会、運営推進会議など)には、回覧板にてお知らせし、畑で作業している人たちには声かけをしている
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会の一員として、自治会費も支払い、回覧板を廻してもらっている 神社の祭りには参加し地域の人たちと親しく交流させてもらっている	○ ホームの入居者の皆さんも参加できる行事には積極的に参加している 野菜やお花を頂くことが多くなった

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議では「介護保険制度について」「東海地震について」など、専門の講師を招き地域の方や家族、職員皆で勉強する機会を設けた	○	地震、火災など、ホームだけでは対応しきれない不測の事態が起きた場合には、地域の皆様には、全面的に協力していただけるようになっている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で指摘されたことを話し合い改善にむけ取り組んでいる	○	前回の指摘事項は改善計画を立て取り組み、話し合い実行した
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	20年度、運営推進会議は5回開催している 意見や要望はサービスのなかで活かしている	○	防災講座(東海地震に備えて) 防災訓練 夏祭り 運動会 敬老会 介護保険制度の講座など地域の皆様多数参加していただいた
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	届出書類の書き方など、分からない点などは運営推進会議で親しくなった市の職員の方に気軽に質問にいけるようになり、身近に感じられる	○	介護保険課の方より、生活が困難である生保の方の入居相談があった 入居待機者があったが、その方を優先し入居に至った
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の家族には後見制度を利用したいと考えておられる方もあり個々の必要性を感じている	○	情報を収集し、個々にあった支援をしていくようにしたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は徹底し、職員全員自覚を持って対応している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	機会あるごとに、ご意見を伺っているが不満や苦情を頂いたことはない
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	運営推進会議では、介護保険制度の勉強をした市の研修、本部の研修にも積極的に参加している
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	遠足、運動会など、大きな行事には勤務日以外の職員の参加がある
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	男性職員も必要であるため、これからは、男性の介護を嫌がる入居者がいても、職員ばかりを女性にするのではなく、家族とよく話し合い理解していただけるように努力していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	「認知症」のテーマの研修にはたくさんの職員が参加している
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	館長は本部主催の会議などさまざまな会議に出席し情報交換をしている
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	解決が難しく本部ホットラインに連絡するような重大な出来事は発生したことがない 館長がよく職員一人ひとりを把握しているため大きな問題に発生したことはない
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○	認知症に関する講演会には、積極的に参加している
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		入居者の言動を否定することがないように、入居者の言葉に耳を傾けるようにしている
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		プライバシーに配慮し、相談記録表などを利用し、家族の言葉に耳を傾け、慎重に話を聞く努力をしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の希望をよく聞き、それに沿った介護計画を立て実行している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して落ち着いた生活を送ることができるように、声かけしながら、家族の協力をえて、ケアプランに活かしている	○	家族からの苦情はない
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の皆さんは、人生経験の豊かな方たちであることを職員は理解しており、尊敬の念をもって接することを心がけている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事には積極的に参加していただき、運動会、食事会などを通してお互いの信頼関係を築いている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には本人の様子や生活の状況を家族に伝え、家族の希望も聞きながら介護に取り組んでいる		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人や知人、地域の人たちがいつでも自由にホームに訪問できるように家族にお願いしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	協力して貼り絵などの作品を作ったり、レクリエーション時には18名全員で、体操、歌、ゲームなどに取り組み孤立することのないように支援している	○	気のあった入居者同士が隣り合えるように席を工夫している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	希望があれば対応している 地域の方で退去された方の家族とは挨拶など、今でもご近所付き合いは続いている	○	声を掛け合えるよい関係が続いている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本位のサービスに努めている	○	自由に生活してもらうために、朝食の時間などは本人に合わせるサービスをしている
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行うことで、それまでの暮らしぶりを把握している 家族にも協力していただいている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの性格をよく把握し、「今、何をしたいのか どうしてほしいのか」を気づくように職員は努力している	○	「気配り、目配り」を忘れず、常に入居者の行動には、気を配る努力をしている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本位の介護計画を立て、家族との話し合いで実行している	○	本人の希望、家族の希望を介護計画を見直すたびに話し合っている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画を見直し、家族に承認をもらっている	○	職員は入居者一人ひとりを良く把握し、状態に応じ協力医と相談しながら、体調の変化に気をつけ、記録に残し、介護計画に役立てている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、介護記録、個別記録を利用し、気づいたことを話し合い介護計画の見直しに活かしている	○	個別ノートをつくり日々の様子、気づきなどを書き込み家族の承認をもらっている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性はない	○	協力医に受診時には職員が付き添い車にて送迎をしている 本人が希望すれば、買い物にもつきそっている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員が月に1度来訪している 運営推進会議では民生委員、自治会長、地域の皆様が多数参加してくれている	○	地元企業の防災担当者が運営推進会議に出席してくれ、全面的に協力していただけることになっている 非常食の提供もしていただいた
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて支援できる体制をとっている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて相談をしたいと思っているが、未だに運営推進会議に出席していただけない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医は24時間対応してくれる 安心である	○	協力医はホームで最後を迎えたいと願っている入居者には24時間の点滴を打ってくれたり、夜間の往診と、きめ細かな対応をしてくれ、家族にも大変信頼されている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、事例はない 専門医とは契約していない		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職との連携は現在ない		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居が可能な状態かどうか、家族から状況を聞いたり、実際に入院先を訪問し、確認している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の希望を個別ノートに書き入れ、協力医と相談しながら、終末期にむけたケアを実行している	○	終末期を迎えられる入居者については、マニュアルを作成し、不備のない様、職員同士の連携もできている
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医の指導の下、家族の希望に沿ったケアをしている	○	家族は「協力医に感謝し、職員にも、大変お世話になった」と話されている 良いケアが出来ている
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	モニタリングなど、日常の様子を記録した書面を持参していただき、生活の変化のない様、納得のいく退去先に移れるように支援している	○	自宅に戻られた方、他の施設に移られた方もあり、それぞれに家族に理解していただき納得のいく退去ができた

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに十分配慮し、対応している 個人情報事務所に管理している	○ ホーム内の写真掲示については家族に了解をもらっている
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の言動等を否定することのないように、まず、入居者の言葉に耳を傾けるようにしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活のなかで、出来ることは手を出さずに見守りし、出来ないところを介助するように心がけている 声かけや、励ましを忘れず行うようにしている	○ 下膳など、出来る人が出来ない人の分も、さりげなく自然にやってくれている
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	持参した衣類は季節に合わせ、職員や家族が入れ替えを行っている 理容はその人にあつた髪型を考え、館長が行ったり家族が来訪して、行っている	○ 館長の理容は大変評判がよく、家族が理容に連れて行く入居者はいない 一人の入居者のみ、家族が理容師なので、来訪しやっている
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	宅配サービスを利用している 茶碗、湯のみ、箸などは、自宅で使っていたなじみのあるものを使っている 後片付けは食器洗いなど手伝ってもらっている	○ 手作りの食事は皆さん「おいしい」と評判が良い
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望に応じて対応している	○ 煙草については、皆さん喫煙する方がいないので、自然と禁煙が定着している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導の必要な方には、時間を見計らいトイレ誘導をしている 尿意便意のある方は、訴えのあったとき、本人の状態に応じて、車椅子、手引きなどで、介助している	○	排泄チェック表を作成し、排泄の状況を把握している
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴している 希望すれば毎日入浴できる 体調に合わせている	○	本人が入浴したくない日は無理に勧めず入浴できない理由を記録し、翌日体調をみて入浴してもらっている
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況に応じて支援している	○	起きたくない場合は、無理強いせず、本人の希望に沿っている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度、食器拭き、掃除など、出来ることは自分の仕事としてやってもらっている 外食、買い物、散歩などを行っている	○	居室の掃除、洗濯物たたみ、モップがけなど毎日の仕事として、やってもらっている ジャガイモ堀、サツマイモ堀、干し柿作り、など、季節感を感じてもらえる行事も取り入れ、楽しんでもらっている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則は、小口現金規定にて管理している 家族に同意をもらい、小額の現金を自分で管理できるように支援している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日常的に行っている	○	散歩は毎日、出来ない日は室内を歩くようにしている 遠足は毎年、ガーデンパークに出かけている
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	野外活動計画を立て外出している 買い物、外食など、出かけている	○	外食は年3・4回行っている 回転すしやラーメンなど、好みに応じて行っている 大変好評である

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所に設置してあり、いつでも使えるように支援している	○	話がうまく伝わらない人には、職員が入居者に代わって連絡をとっている
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は快く受け入れている お客様には、お茶を出しくつらいでもらっている	○	レクリエーション時に面会にこられた家族のかたなどには、一緒に体操や、ゲームに参加してもらい、普段の生活をありのままに見てもらっている
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない	○	職員全員、身体拘束について理解しており身体拘束はしていない
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ、玄関に施錠し、日中、居室、玄関には施錠していない	○	入居者が外に出るときは必ず職員が付き添い、安全にホームに帰るまで見届けている 外出を止めることはせず、どこまでも、入居者が納得するまで、一緒に歩いている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	勤務している職員は、入居者の状態、居場所を確認しやすい場所で見守りを行っている	○	就寝中でも、入居者が安心して、眠れるように見守りをしている
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	勤務している職員は、入居者の状態、居場所を確認しやすい場所で見守りを行っている	○	転落、転倒の危険性のある人には、その人に応じた対応をし、見守りを重視している
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策マニュアルにて対応している インシデントを活用し、事故防止のため取り組んでいる	○	救急救命の講習を受けたり、防災、防火訓練などを実施している緊急連絡網を作り万一の場合に備えている 居室には、避難誘導のための写真入りのカードがかけてあり外部からの応援時に備えている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故対策マニュアルに沿った訓練をしている	○	緊急時の協力医との連携、119番通報、家族への連絡など、職員が認識しており、不備はない
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の皆様、地元の企業が快く協力してくれることを了解してくれている	○	水の確保 避難地の提供など、地元の皆様の全面的な協力体制ができています
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒、誤嚥など、一人ひとりに起こりうるリスクについては、3ヶ月ごとのモニタリングを利用し家族に話し、サインうをもらっている	○	一人ひとりの個別ノートに常日頃の様子、変化を記入し家族にサインをもらっている
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、体重測定などを行い、協力医と連携をとっている	○	食事のとれなくなった方や、栄養が食事だけでは足りない方は協力医の指導の下、栄養補助食品を利用している
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「処方薬について」の説明紙をカルテに綴り、与薬の際、名前を再確認し、服薬を必ず確認している	○	同姓の名前が多いため、再々確認に心がけている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の散歩を心がけ、水分は多めに摂ってもらっている 水分摂取量の少ない方や、便秘の方については、排便表をチェックし、協力医と相談し、その人にあった薬を出してもらっている	○	便秘薬を使用しているも、排便表をみて、数日間排便のないときは、座薬などを使用しスムーズに排便できる様に介助している
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きの出来る方は、声かけしている できない方は歯磨きの準備、うがいの手助けをしている 入れ歯のかたは、入れ歯洗浄を行い、夜間は預かり、翌朝洗面後に渡している	○	毎食後、入れ歯の洗浄、うがい、歯磨きの介助をし、口腔内の清潔に努めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、細かく介護記録に記録している 糖尿病、高血圧の持病がある方がいるため協力医の指導の下、食事量に気をつけ、週1回の体重測定をしている	○	油物、高カロリーの食物は控え、体重の増減に気をつけている 水分摂取量を記録に残している
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	入居者も職員も全員がインフルエンザの注射をし、トイレの手すりなども、ウルトラサンで消毒し、食事前には、おしぼりを使用している	○	外出、受診時には、マスクを着用し、帰設後はうがい、手洗いを実行している
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に1回は、食器類を漂白剤に浸ける 布巾、まな板などは、随時行っている	○	台所で食事作りや、食器拭きのときは、必ず手洗い、ウルトラサンなどで、消毒している
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回りには、季節の花を植え入居者には、個人個人で鉢植えをし植物の成長を楽しみながら、毎日水やりをしている	○	鉢植えは2年前より取り組み、野菜、球根、朝顔などを植えてきた 何を育てたいか希望を聞き、楽しんでもらっている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋建てであり、広い玄関で2ユニットがつながっている ので、入居者は自由に行き来できるようになっている	○	毎日のレクリエーション時には18名全員が一緒に体操や、歌、ゲームなどを行っている 自由に行き来できるため、入居者同士が顔見知りになり、仲良く生活ができています
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチンへも自由に入れるので、食事作り、後片付けなど、なるべく自然な形で役割の機会を楽しんでいただけるようにしている	○	気の合った人同士で、隣り合えるように、席も工夫している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に自宅で使用していた物を持参していただくように、声をかけている	○	箆笥、いままで大切にしていたぬいぐるみなど、居室にもちこんでもらい安心した生活を送ってもらっている
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気を行っている 居室の空調などは、入居者の体調により、職員が温度調節をし、常時、加湿器を使用している	○	回りに大きな建物もなく、日差し、風通しもよく、大変恵まれた環境で生活できている
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーである 車椅子が不自由なく移動できるように、家具の配置などにも気をつけている	○	身体能力に応じ、居室のベットの位置に配慮したり、食事時には、見守りのできる位置に座ってもらうなど、工夫している
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のドアに入居者が分かるように名前を貼ったり、毎月カレンダーを作って居室に貼り受診日や楽しみにしているイベントなどを記入している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者に鉢植えを楽しんでもらっている 夏には野菜を育てたり、朝顔をフェンスを利用して育て観察日記をつけたり、今年は玄関先にパンジーが咲いている	○	この取り組みは、入居者の皆さんに大変好評であるため、これからも続けていきたい

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 政本系列の施設では、最初に運営推進会議を開催した
- ・ 運営推進会議を通じて地域の皆様、地元の企業が災害発生時には全面的に協力していただける体制ができた
- ・ 開所時より離職者がなく、職員同士の和があり、良い介護が出来ている
- ・ 回りの環境に恵まれ、日差し、風通しがよく、入居者は毎年風邪を引くことがない
- ・ 今年の正月には、入居者と職員でカルタを手作りし、好評だった